

2014年度 活動報告



組込みシステム産業振興機構

Embedded System Industry Promotion Organization ESIP

(教育事業:第1部会) 2014年度活動報告

2014年度 事業計画

1. 「組込み適塾」の運営とPDCAに基づくブラッシュアップ(主体:組込み適塾カリキュラム検討WG, 講師会)

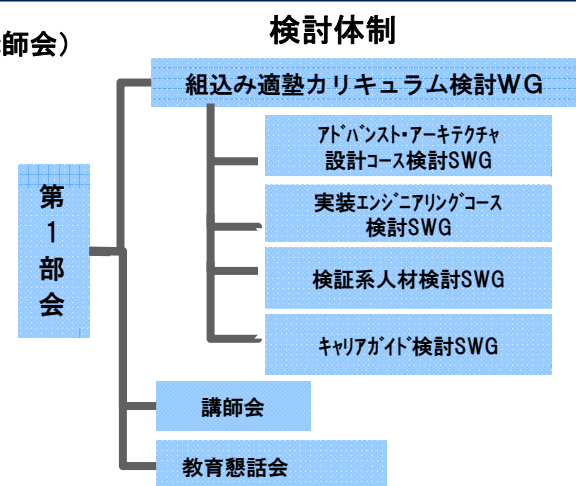
- ーアドバンストコースの試行と見直し.
- ー製品開発(クラウド連携、セキュリティ等)/検証系人材育成カリキュラムの検討.
- ー理解度テストの試行と効果測定.
- ー社会動向に合わせた「組込み技術者向けキャリアガイド」の見直し.

2. 遠隔講座充実による「組込み適塾」展開拡大

- ー遠隔受講者の科目一括受講の実現、及び継続受講に向けた枠組みの検討.
- ー可視化システムを活用した遠隔講座の効果検証.

3. 産業界のニーズにあった「質」の高い人材育成のための継続的検討(主体:教育懇話会)

- ー受講生や派遣元との交流で実践的に役立つ”製品開発力強化に貢献出来る人材”についての検討.
- ーこれからの新規ビジネスを創出し、それを担う人材についての検討.



2014年度 実績

(実績①)第7回組込み適塾は95名が受講し、受講者・派遣企業から好評を得た。また、4つのサブワーキング及び講師会により組込み適塾の継続的改善を図ることが出来た。

- ーアドバンストコース受講生の8割から高い評価を得、コースの意義を確認した。次年度も引き続き、カリキュラムの微調整、遠隔講座の開設、プロモーション強化による受講者の増加・満足度の向上を図る。
- ー組込み開発に関わる検証系人材の検討を行い、検証系カリキュラムを定義した。第8回組込み適塾より検証アーキテクティング科目として新設させる。
- ー約7割の受講生参加のもと事前・事後テストを実施した。組込み適塾の受講効果は測定には適さないが、受講者の基礎スキルの確認としては有効であることを検証した。
- ー活発なサブワーキング活動により、新カリキュラムガイドの検討・改訂を実施し、IPAと合意を得た。

(実績②)東北地域の拠点追加(岩手県)ならびに講座の科目一括開講により、53名の遠隔受講者を得た。更に、大型可視化システムの活用により、関西会場とほぼ同等の受講者評価を得た。

- ー宮城会場より11名、岩手会場より1名(一括受講者全体の21%)が一括受講。また、関西受講者と一体となった採点により、成績優秀者及び科目修了証の発行、経年継続受講の枠組みを実現した。
- ー可視化システムの導入により、8割以上の受講生に臨場感の高い講義を提供した。更に、今後の遠隔講座拡大に向けた方針として定義した。

(実績③)「教育懇話会」にて各企業の人材育成事例を紹介・議論を3回実施し、課題についての意見交換を実現した。

- ーコトづくりプロデューサー、インターネット志向組込み技術者、クラウド志向組込み技術者をテーマに参加社を拡大して議論・課題の検討を図った。

(ビジネス支援事業:第2部会) 2014年度活動報告

2014年度 事業計画

1. 組込み開発企業展示会の継続展開

- 関東圏での開催による市場拡大や新しいパートナー創りを目指す。
- 展示先との連携を進化させ、双方向での情報交換や、新たなコラボのきっかけづくりを促進させるべく、施策をブラッシュアップする。

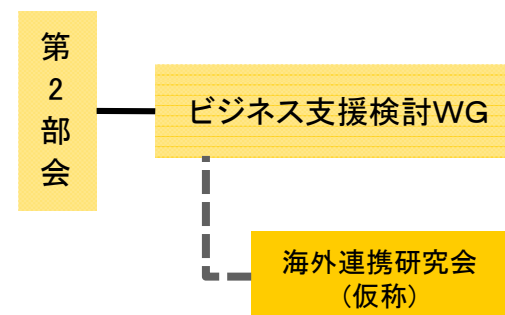
2. オープンイノベーションの実践に繋がる情報交換の場の提供

- プライベートセミナー等で、シーズ・ニーズの最新情報を展開する。
- それをきっかけに、会員同士がサブWG(あるいは研究会)にて、実ビジネスへのアプローチをサポートする。

3. 海外連携支援の方向性について方針を出す

- 共通課題の抽出・解決など、有益な議論や情報交換を進める。
- 会員ニーズを確認した上で、海外(主にベトナム)への取組みなど方針を定める。

検討体制



2014年度 実績

(実績①) 関東圏での開催による市場拡大、新パートナー創出を目指し 展示会を2回開催

- 第7回 株式会社日立製作所様(大みか) 出展:26社・団体、来場者約370名、24件の後日アポを獲得。出展者からのプレゼンで技術力をアピールできた。
- 第8回 日本電気株式会社様(玉川) 出展:21社・団体、来場者約350名、16件の後日アポを獲得。日本電気様、出展企業間での技術情報交換も促進された。

(実績②) プライベートセミナーを開催し情報交換の場を提供

- 注力分野「ロボット」「エネルギー」「ヘルスケア」のひとつ「ヘルスケア」をキーワードにプライベートセミナーを3回開催した。
(テーマ 第1回:高齢者の生活とICT、第2回:健康寿命とICT、第3回:地域支援とICT)
- セミナーの形式を「講義+ディスカッション」とする事により、講演者と参加企業で活発な意見交換を行う事ができた。

(実績③) 海外連携支援の方向性について議論を重ねた

- 海外連携について部会、WGを通じて議論を実施。会員企業ニーズの多様化、計画との乖離を懸念し、第2部会を対象にアンケートによる実態把握を実施した。過半数の会員企業で、海外連携を実施しており、海外連携の立上げ支援ニーズは低い。取り組んでいる海外連携を円滑に進めるための情報提供にニーズ有り。
- 当初計画していた海外連携の立上げに関する支援については、ニーズ無と判断。海外連携支援に関しては、何等かの会員ニーズが出てきた段階で取組みを検討する。

(実績④) 第2部会メンバー間の情報交換促進 <開発支援と共通>

- 部会・WGメンバー間の情報共有・連携強化を図るため、機構ホームページ内に簡易な専用BBSを立上げ、部会全体の活性化対策として活用検討を開始した。

(開発支援事業:第2部会) 2014年度活動報告

2014年度 事業計画

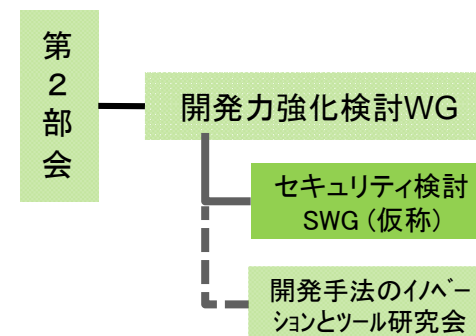
1. セキュリティへの対応と派生開発の開発力強化

- セキュリティ対策(セキュリティ検討SWG)
IT分野のノウハウ、事例を研究し早期立上を図り、組込み産業での対応方針検討。
また、中小企業向けの施策として、中部経済産業局・近畿経済産業局と連携し、
当局発行の「組込みシステムのセキュリティ取組みガイドブック」を活用した取組みを検討
- 派生開発における開発合理化と品質保証について検討
「開発手法のイノベーションとツール研究会」と連携し開発手法の検討。

2. 強み獲得のきっかけづくり

- 産総研オープンラボツアーでのニーズ・シーズ調査や新たな(産学官)共同研究の
枠組み検討等による、強み獲得のきっかけづくり
- 機構会員が集まった強みづくりの活動促進(研究会の発足へ)や、大学等との連携による
ものづくり力強化に繋がるイベントなど検討

検討体制



2014年度 実績

(実績①) 組込みセキュリティの取組みとしてAIST/ESIP合同セミナーでセキュリティを上げる等、情報を提供することを主に活動

- 企画広報と連携し、AIST/ESIP合同セミナーでの組込みセキュリティ・組込み機器の安全等の技術情報の提供を実施した。
- 中部経済産業局の「組込みシステムのセキュリティ取組みガイドブック」を入手して、希望会員に配布した。
- セキュリティ検討SWGの立上げ、および派生開発関連の検討は、会員ニーズの多様化・変化を踏まえ、引続き活動の方向性を検討していく。

(実績②) 強み獲得のきっかけづくりについて、WGの立上げ、産総研との連携による見学会を実施

- 産総研関西センター様のご協力ご尽力により、当該センターの見学会を実施。参加者は38名(15社・3団体)で、ここ関西で特長ある取組み(ロボ)を考えていききっかけになったなど、好評であった。
- 開発力強化検討WGを立上げ、「安全・健康に暮らせる街づくり」をテーマに、注力技術「ロボット」・「ヘルスケア」・「エネルギー」をターゲットにした活動を行った。「健康寿命を延ばす」という課題に絞り、ディサービス・介護・リハビリセンター・医療・身障者スポーツ施設等を訪問して、現場のニーズを取得する事に注力した。
本年度は試行として本WGに取り組んだが、来年度は取得したニーズを分析しビジネスに繋げていく事を目指す。
- 各社ターゲットとする技術が異なるため、オープンイノベーションの強化が不可欠であり、新たな研究会「ビジネス企画研究会」を立ち上げた(15/1月)。本研究会の成果を部会・WG活動に活かすべく連携を検討していく。

(実績③) 第2部会メンバー間の情報交換促進 <ビジネス支援と共通>

- 部会・WGメンバー間の情報共有・連携強化を図るため、機構ホームページ内に簡易な専用BBSを立上げ、部会全体の活性化対策として活用検討を開始。

(企画広報事業) 2014年度活動報告

2014年度 事業計画

1. 地域連携深化・競争力強化の場づくりに向けた戦略的企画立案と実践

- － 第4回「全国組込み産業フォーラム」を沖縄で開催。東北・関東との施策連携を拡大するとともに、他地域との連携施策の具現化。
- － 近隣の中部(名古屋)地域との連携深化を進める。(地域交流プラザを中部地方で開催、セキュリティ施策での連携など)
- － コア技術獲得など強みづくりのため昨年度試行した産総研オープンラボツアーを第2部会へ移行し本格的な施策に発展させる。
- － 新たな施策として、第2部会が進めるオープンイノベーションや強み作りを検討するための企画検討、試行実施。

2. ニーズ変化に対応した情報発信と会員交流促進

- － ニーズの高まっている「安心・安全」と新たな注力分野「ロボット」「エネルギー」「ヘルスケア」をテーマに産総研と合同セミナーを実施。
- － 会員限定に一步踏み込んだ情報発信をする場としてプライベートセミナーを継続実施。

3. 研究活動の活発化

- － 新たな共同研究事例にチャレンジ。
- － 研究会成果と部会施策の連携実現。
- － 近畿経済産業局と連携した補助金・知財関連の情報発信。

4. 広報活動の充実

- － 機構プレゼンス向上を目指し広報活動をさらに強化する。

2014年度 実績

(実績①) 地域連携深化・競争力強化へ向け、「全国組込み産業フォーラム」「産総研テクノブリッジフェア」などの施策を企画・実践

- － 第4回「全国組込み産業フォーラム」を沖縄で開催。10団体、約50名が参加。継続的な実施により他地域との関係を深め、事業基盤の拡大に貢献。
- － 組込み産業地域交流プラザを名古屋で開催。来場者約150名。中部(名古屋)地域との連携を深化させ、ヘルスケア分野などで課題を共有。
- － コア技術獲得に向け、産総研テクノブリッジフェア(つくば)、産総研関西センター見学会を開催。見学会では、関西で特長ある取組みを考えていきつかけになったなどと好評。2015年度も連携継続の方向で検討中。

(実績②) AIST/ESIP合同セミナーを4回実施、のべ155名参加

- － 産総研セキュアシステム研究部門と合同セミナーを4回実施。参加者からは、「産総研の先進的な研究内容など学ぶ機会が得られてよかった。」「各分野の課題や今後の方向性が理解できた」などのコメントが得られ、コア技術獲得のきっかけづくりに貢献。
- － ヘルスケアをテーマにしたプライベートセミナーを企画し、第2部会施策として3回実施。

(実績③) 強みづくりに向けた会員主導の活動が活発化

- － 新たに「ビジネス企画研究会」が活動を開始。
- － 第5回研究会活動報告会を近畿経済産業局知財セミナーと併設、来年度以降も連携継続の方向で検討。

(実績④) 機構ホームページの活用促進

- － ホームページをリニューアル。イベントスケジュールや部会・WG等活動スケジュール、部会長・副部会長紹介を掲載。
- － facebookページの試運用開始。会員以外への機構活動のアピールを図る。